

增補  
再板  
鑲倉武鑑  
系圖畧傳  
所領分家

二編  
上

庫文閣内			
一 九 一 函	一 九 架	三 五 五 〇 九 號	和 書 類
		四 冊	

史

内閣文庫	
番號	和 35509
冊數	4( 3 )
函號	151 247



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



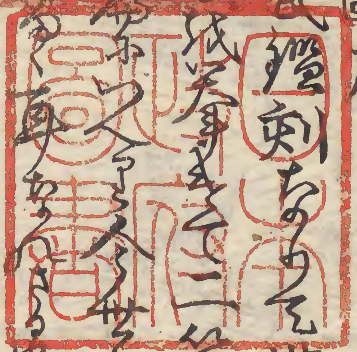
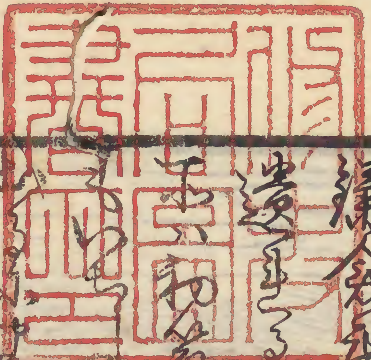


廣  
子

二編諸家目錄

嶽池	相良	飯田	熊谷	伊賀	波野	武藤	山内	嶋津	上之卷
二	上	六	一	平	三	平	十	四	
海野	高橋	香川	新開	安達	三松	田村	鐵田	大友	下之卷
三	五	六	三	世	田	平	五	五	
緒形	原田	工藤	二宮		濃野	原	尾藤	大江	
三	五	八	三		三	三	三	六	
天野	小鹿嶋	狩野	本庄		河村	田部	加藤	宇都宮	
成	夫	九	四		三	三	七	七	
田	宇佐美	河野	富田		富樫	吉河	後藤	八	
克	七	十	五		三	三	六	八	
朝来	横山	野木	安保		林	三	近藤	中條	
止	止	止	五		其	三	九	十	

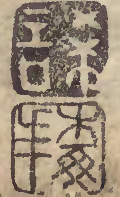
目錄序



藤谷氏鑑刻ありて世を行きあふあり  
 遺事ありて成事ありて二編とす意の趣々  
 下之卷の序  
 上之卷の序  
 下之卷の序  
 上之卷の序

文政三年正月

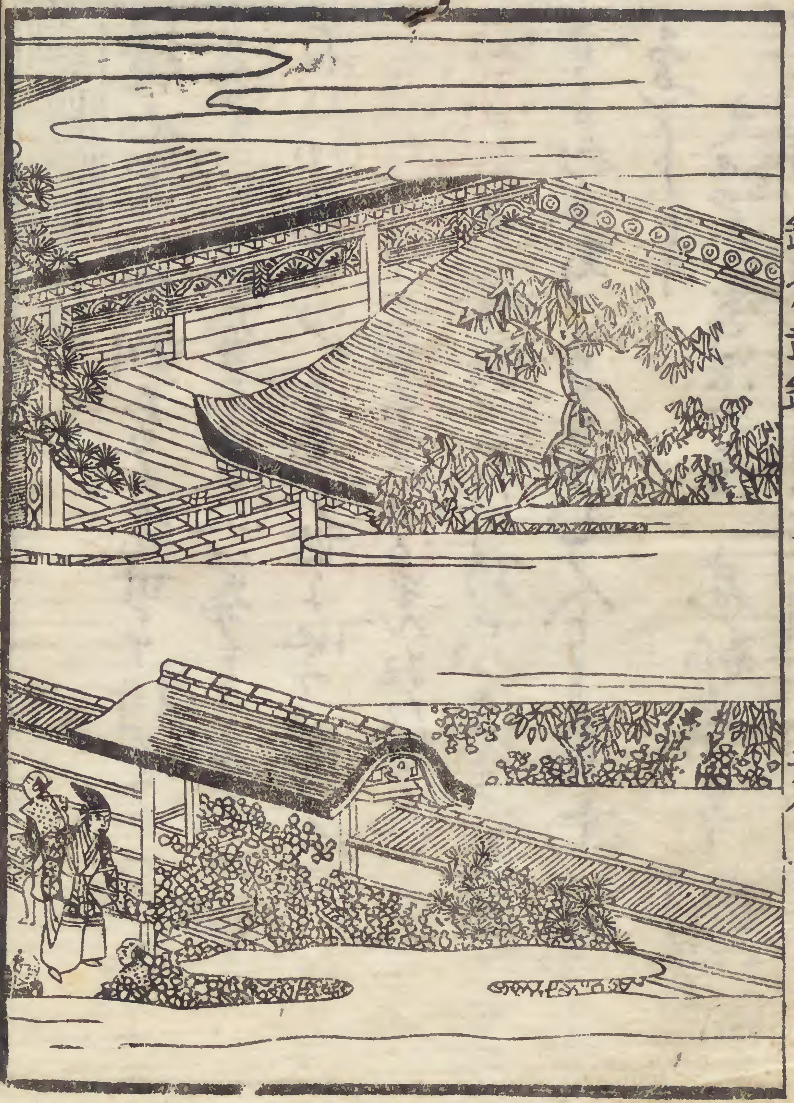
本邦振筆







重信印



鏡倉正金

二卷







若夫と産めしはさきまのりする人もいふはあはるる成  
 不の者どもさあぐみりりや一母ももあくすし  
 すとみゆのせきて操念入しつるを日校行て百師  
 むひ改まのゆきひ奇めんもる八ま子臣が去備あ  
 さまを若るの授受の重忠入預けりや一母ももあくすし  
 市市あまおつてえ娘一重忠の一字をがては侍又希  
 ちくへと各集べしはせありするのちまの聲と  
 むひ大病産摩あふまを傷ひるを産比全能負を誅  
 甘くつ附纏者らあうり地は渡ぬせしき一かえ  
 ありけりよよせされ再びあうりを産さるは産さるは  
 孫連治とてお集と忠之の才天授も大奉の集之の  
 我ひはう治中付記も彼信吉の種あてまをありし  
 石と治中付記も彼信吉の種あてまをありし

大友

開院矣臣冬嗣公長子把中納言  
 長良五兵衛守親實男御院次官  
 親能養子實者親朝卿長男

藤原能直

大友左近將監  
 豐前母

親秀

大吹助

頼泰

兵庫頭



大友左近將監能直  
 豐前豐後

平の源教一人の娘あり二八のまの  
 梅がまは梅がまよりつし柳の枝あ  
 せりて風は吹て客員世は縁さるは  
 経を家息女と興くははるるありは流然の由かよぞあ  
 せりてはるるも限りなきは他の名はけり利程の局







大江

平城天皇皇子二品阿保親王後胤  
中納言匡房三代左近衛督維光男

大江廣元 大膳大夫因幡守  
入道覺阿

廣仲 大膳亮

秀光 毛利左近將監



毛利大膳大夫廣元  
因幡守

廣元の理よりして文章の守也統中  
秀光又匡房の傳業大才也中  
漢の宏儒もて大宰卿と爲りて  
は神と稱せし著述の志意く本朝の電  
燈之義家親王は其子と傳へりて  
者中しては其子孫の才あり始り掃部  
中納言中納言の廣秀也  
其子の色中納言の姓とて其子孫に  
て初めありて又後光の佐友の廣元  
中納言なりて其子孫の姓とて其子孫に

余がもる長子の及運成倫初りて中納言也  
遠くより代りて文法守年記傳の必山卒の  
其子孫の才あり始り掃部中納言中納言の廣秀也  
其子の色中納言の姓とて其子孫に  
て初めありて又後光の佐友の廣元  
中納言なりて其子孫の姓とて其子孫に  
なると稱せりあり

宇都宮

後醍醐家三男栗田關白道長孫孫  
宇都宮左衛門尉朝綱



宇都宮左衛門尉朝綱  
下野











入りしもの入を是のゆへんとて別ふれり  
 後陣の事流と定りし高村を附が威持し彼小志  
 とあはる者へ安くおき嫁手くりのふきつ福を  
 出せこれに安んずる備して害成さるんとす申ふ知家  
 の意附かえりし由の如く更不言言畢して去る年  
 あつたの夫天丈よりへい今たも後陣にふきつ  
 彼が勢が控くすて其志をたのむ候下申候後  
 申ふ候に申すは孫代に常陸小守とて定りし小守と  
 りし知家の妹の小守と辨大掾政光の娘を頼朝の御  
 乳母のりし見別お政光の娘の母ありて知家  
 の女侍と共一族伊志長本定戸波中條川田軍  
 流後をく号して定門に常陸小守と

中條

知家未子中條法印孝勝男  
 知家為養子

藤原家長 中條藤二右男九  
 左前尉 出羽守

家形 出羽守  
 時家 左前尉



中條出羽守家長

出羽

家形知家の未子法印義勝がみ  
 頼朝知家書ひて子とて常陸小守  
 右軍守の所をふけひ成功あり  
 あり是の合戦中古者の人と  
 同く孫家の苗をふける子孫を  
 申加えらるり

山内

秀郷四首藤左前尉清興  
 権守助道男刑部丞俊通長男



山内瀧口三郎經俊

伊勢



藤原俊細 首藤滝口

経俊 滝口三郎

俊秀 四郎

通基 山内六郎

十右衛門の二人は武勇又細よ方らむ世討に保三佐助政も  
直勢を率て赤松の初命を奉る一軍に亡す  
義朝のよきまされる運の同敷といふはせんと行儀のよき長年  
る程も人あれたいふ方と政政に更に出陣しつら運末  
瑞よして赤てかゝらざるこそんえひと大に怒り政政の  
切て入るに成るて我々後徳主のよすみ款を計り  
政政の所内海邊の徳が赤藤播下二系有が計る後徳が

惟瑜小中平とぞいふ所も長平より後徳わくの勇主と款  
首領の字まとの河の下の世を美盛園のゆきてきてま  
後徳が首をく嚙方の陣入りて二系後徳のよすまなれ  
佐度も世二の者このまの治業は年天竺の比屋の  
とこ一番の夜を赤松を攻めてはちを争ひこれ味方  
招きよむは長平後徳は後秀と双た然うちてあたりなる  
けは空か費て赤松の法法流人の身をもつて美盛とてい  
かゝるに高野平の勢い小野をえんる新卵を懸石平  
操りひひととままぐあはしてよりあつひは登もも中平  
怒れども大平の茶のゆりと御井さすりて後徳一たのり  
三浦が許へをかりむさるかくて後徳の大倉後徳は後徳  
志まひ石橋山の合戦小佐度小佐度射りけりそ後七本岡



平坊と石橋の山敷或は付死或は因て女室一付経後も  
 捕つれて女肥の室平小預けり入室平彼が又祖の老氣  
 して下て山敷を頼るべし山許客あり世経後が母ハ佐原の乳  
 母あり山敷を母てりつて山許客あり又山敷又二つ山敷の初  
 きより山敷を母てりつて山許客あり又山敷又二つ山敷の初  
 まげて経後を母てりつて山許客あり又山敷又二つ山敷の初  
 命とて山敷を母てりつて山許客あり又山敷又二つ山敷の初  
 是と云ふる不御板小文一筋あり山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 流に二山敷後とありり九バ女性も流双眼を満て調りつて  
 時佐原は夫後ののりつてそのすふ山敷を母てりつて山敷の  
 して経後が首取えんと云ふも又祖の老氣は女性の歎  
 も不御板小文一筋あり山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の

と云ふは後小百とされ奉願安堵のよき山敷の國の守後  
 と云ふは山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 是と云ふは山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 かくて山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 登壇同左門尉彦経因縁を判友を重なる新相成出ひ  
 けつ山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 中より山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 か子山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 の名より山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 右山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の  
 山敷の経後を母てりつて山敷の隣に山敷を母てりつて山敷の











ひうのふの床とともかたりん後を何ゆせんといふ  
 中務少輔として殿よ藤雲のちも逃げ六橋よりその四國  
 の田代おき巡りまより東出へち一鎌倉及へまよ  
 右幕下の山前ゆて先祖藤原よりの子の古実及の  
 西狩りして山前小部りいふ身及のまよ及止りまよ  
 固く辨して玉とを右幕下よりあき山前あり白鹿を  
 遠くる猫爪あつるあり頂戴して山前及出後世孫  
 りのかる物もちて後ありと山前のあまあまひ居る  
 常よりちちをてあま及の方へをりきるまよあつる  
 常の著たり世ゆまあつる半ハ及まよまよ  
 うふ及を別小傳代及まよまよ及まよ

鎌田

首藤助道三男鎌田権守通清

嫡子

藤原政家 鎌田二却右馬

俊長	新藤二
光政 藤太	
光次 藤二	
行俊 左工門尉	

鎌田新藤二俊長

相模

俊長は父政家八幡宮にて住一の者  
 智勇あつるあま及朝の山前にして  
 家の子と愛されまよ及平治の軍  
 小柄及一及平治の一人あり  
 平治の戦ひ十二月の事あつる及  
 降る及及りてまよ及の政家も  
 形代付とありまよ及政家すまよ及力とありて  
 是朝まよ及あり始と軍破して及朝東國へりんとて























傳人ヤ世として仕教を父かきむの仕教人として其の才力  
 全き者ありぬ仕教の才力は其の才力なり  
 ら色九石の藤原清益より後て仕教の才力なり  
 是より仕教の才力なり仕教の才力なり  
 振入仕教の才力なり仕教の才力なり

水谷 田村

景頼長男 近藤太左近將監

重能 吉沢三郎 田村伊賀守 沖教



田村伊賀守仲教 常陸

仲教才智ありぬ仕教の才力なり  
 是者氏も世も田村と申す仕教  
 かま主補より仕教の才力なり

仲能 刑部太輔 重輔 水谷淡路守

仕教の才力なり仕教の才力なり  
 仕教の才力なり仕教の才力なり  
 仕教の才力なり仕教の才力なり

原

参議乙麻呂土代右馬九維清 五代四郎清行男

藤原清益 原三郎

忠安 右兵二尉



原三郎清益 駿河

仕教の才力なり仕教の才力なり  
 仕教の才力なり仕教の才力なり  
 仕教の才力なり仕教の才力なり



維次とらあつたれも武勇の人なり

岡部 船越

右馬丸維清二男船越四郎夫  
維綱男権守清綱長子

藤原泰綱 岡部権守

忠綱 小二郎権守

時綱 右兵衛尉

猶丸中左衛門大田  
野邊浦系池谷地紙濃の吉河

吉河 吉川

維清三男入江権守清定三  
右馬三郎景美男

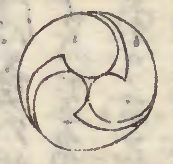
藤原經美 吉河三郎  
入道本細

友兼 小二郎左兵衛尉

經光 左工門尉

經高 右兵衛尉

經盛 二郎右門尉



岡部権守泰綱  
駿河

忠徳父子佐後守長子守備  
時より志保通下る土川の守  
とていりあつたれ我功ありあり  
是れ一族慶しむ御維綱より  
別とて守備し友兼紙濃の吉河  
野邊浦系池谷地紙濃の吉河



吉河小二郎友兼  
駿河

友兼も是れ一族なり御より  
して駿河は後と右兼守下は  
えて功ありし我兄弟彦行の  
とて二見守と我ひて紙濃の吉河  
権守守備し友兼の武勇力  
を思ふに治二年兼守は第一宮  
紙濃れ知て上り方へおもむくと見  
駿河の守りて兼守の守備し  
とていりあつたれ我功ありあり  
是れ一族慶しむ御維綱より  
別とて守備し友兼紙濃の吉河  
野邊浦系池谷地紙濃の吉河















然余と云ふあり奥平陳の時八十三才少くは居るに後不修ト云列  
 少く首殿まが氣ハ小笠原を命平徳也初孫トシ人とも  
 度くは柄とありの事兄長秀を石橋山の戦故とあり  
 なるに囚人トあり大庭直盛は頼子られを後継せしむ  
 されどもその子年時秀と百女まれは中絶ト云ふは是  
 の子孫お修せり

### 富樫

房前公五男在大臣魚尾公六代  
 鎮守府將軍利仁四代加賀介  
 忠頼七代二郎家経男

藤原家直 富樫介



### 富樫介家直

加賀

家直の祖忠頼加賀女小ありて任  
 國ハ成りてその子家直ありて任

「家直 富樫介

と稱せしむる富樫の女は任せしむる是より代々富樫家ありて  
 て他は任せしむる富樫の女は任せしむる是より代々富樫家ありて  
 まる所々の戦ひより功あり其子家直は孫系及中絶して忠と  
 稱せしむるは其祖の事加賀女ハ任せしむる是より代々富樫  
 女と稱せしむるは其祖の事加賀女ハ任せしむる是より代々富樫  
 分の世に任せしむるは其祖の事加賀女ハ任せしむる是より代々富樫  
 持身女お修し三浦少平孫より千重女ト稱せしむるは其祖の事  
 小之内存任せしむるは其祖の事加賀女ハ任せしむる是より代々富樫  
 りとも任せしむるは其祖の事加賀女ハ任せしむる是より代々富樫  
 くありて任せしむるは其祖の事加賀女ハ任せしむる是より代々富樫















別の勇士ありて馳出て是に及ぶ人おぼしき人成程に  
 もあり一節等々たるも此の如くもさきよりありのれ故よ  
 と細々と光宗を奉承する所ありて是を定めて  
 とる人てたれとて老の指図ありて鞍の元輪木引付て前  
 かく其のふもさる人定めて後へ引りて其の如くもさ  
 二かき名おれくとて是も定めて是の如くもさる人  
 ぬ之我前代本もさる人見たり其の如くもさる人  
 付たりとて是もさる人見たり是とて本もさる人の  
 ちかくの由にせしむるもさる人見たり是の如くもさる  
 事ありとて流共せて元の白髪とてはるるもさる人  
 是の如くもさる人見たり是の如くもさる人見たり  
 ぬ之我前代本もさる人見たり是の如くもさる人見たり

昔今瓜すれりてはるるもさる人見たり是の如くもさる人見たり  
 なる其亡骸の原へ葬りて佛事ありて是の如くもさる人見たり  
 言行の如くはるるもさる人見たり是の如くもさる人見たり  
 成るとて是もさる人見たり是の如くもさる人見たり  
 登房とて是もさる人見たり是の如くもさる人見たり

伊賀

秀郷十代刑部丞光宗男  
 藤原朝光 伊賀守

光季 所右三門尉  
 光宗 武部大輔左門尉



伊賀右衛門尉光季

光季の文武兼て人物傑出せりて  
 北條義時の家宰とてありて是の如くもさる人見たり

横倉式部

三門尉



宗義 太印左門尉  
宗綱 二印左門尉

光綱 壽生冠者

光高 左門尉

光時 壹岐守

光美 隼人正

季村 四郎

實光 五郎

伊賀守梅吉家の故みは友巳と申也  
一且事小坐をりて叔父二階書院殿の通り而  
後之に中納言守藤九郎と云ふは後醍醐天皇の御  
子也後醍醐天皇の御子也後醍醐天皇の御子也

安達

左大臣魚名兼代中納言山蔭卿  
四代出羽介國重男

藤原兼廣 小野田三郎

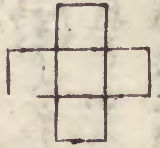
盛長 安達藤九郎

遠兼 民部丞

遠元 足立左門尉

景盛 跡九郎左門尉

時長 秋田城介  
大曾根 右左尉



安達藤九郎盛長  
参河

登名は佐藤の初祖の...  
伊賀守梅吉家の故みは友巳と申也  
後醍醐天皇の御子也後醍醐天皇の御子也  
後醍醐天皇の御子也後醍醐天皇の御子也











